

# 動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。生物どうしは、常に食う・食われるといった関係「食物連鎖」(= 3年生の範囲)でつながっています。私たちの食物も必ず植物か動物ですね。さて、今回は猛きん舎でおこった食物連鎖の事実です。



まずは、左の写真を見て、「何が起こったのか」そのストーリーをメモしてみてください。これが自然界のおきてなのです。

写真中央に横たわっている、ずんぐりとした生物は「ネズミ」(写真下)です。円山動物園の猛きん舎には、野生のネズミが住み着

いていました。「エサの豊富なところには、それを食べる生物もふえる」という自然のしくみでヘビ「アオダイショウ」もいるとキ



ーパーたちにはあたりまえの話でした。ところが、「ネズミ」を食べる「アオダイショウ」(どちらも野生)が無惨にもからだの中央でちぎれているではありませんか。



ここで2年生の範囲、ヘビはセキツイ動物ですから背骨があります。ちぎれた「アオダイショウ」に背骨がありますね。からだの表面は「うろこ」でしたね。

普通はここまでです。ところがここは猛きん舎、このナンバー1は、猛きん類だったのです。力関係は「ネズミ<ヘビ<猛きん」となります。



さて、何が起こったかという、アオダイショウが、ネズミをエサとして捕獲して食べはじめました。その証拠にネズミのからだの一部はとけ始めています。ところが、そ

こに猛きんが襲いかかったのです。食事のヘビは、逃げることはできません。鋭い爪におさえられ(写真左の傷右側)鋭いくちばしで襲われた(同左の傷)と考えるのが、流れです。食事のアオダイショウは逃げることで、その命を失ったのです。動物にとって「食事」ということは、「命をかけた真剣勝負」なのです。ゆったりと食事を楽しめる「ヒト」にうまれて良かったと思いませんか。



「学びたい」という気持ちをもって、取り組んでいますか。学校では、学ぶことが決まっています。でも社会教育施設ではきまっていないのです。ですから、それだけ好きなことが学べます。みなさんの興味関心によって。では、また。